フェーズフリーから事前予防を考える

令和７年８月２日（土）

亀岡市自治防災課長　藤本祥之

Safe Community Japan
Kameoka City

亀岡市の概要①　位置・面積・人口

面　積:224.8㎢

人　口:85, 801人(京都府内3位)

男:41, 656人

女:44,145人

世帯数:40,580世帯

(2025年7月1日現在)

亀岡市の概要②　地理・気候

○気候

・年間平均気温：15．2℃

・年間降水量：1,716．0mm

○地理

・市域全体で自然が豊か

→森林面積は市全体の7割の15,302ha（2015.4.1現在）

・晩秋から早春にかけて朝方に市域全体を濃霧が包む

→観光スポットとして「かめおか霧のテラス」を設置

亀岡市の概要③　施策等

〇2020年
・サンガスタジアムby KYOCERA完成
・レジ袋禁止条例施行

〇2021年
・ウッドスタート宣言
・デジタルファースト宣言

〇2022年
・子どもファースト宣言

〇2023年
・オーガニックビレッジ宣言

〇2025年
・国際安全都市宣言

セーフコミュニティのあゆみ①

2006年　セーフコミュニティ取組を宣言

2008年　セーフコミュニティ国際認証を初取得

2011年　自殺、乳幼児、高齢者、交通安全、防犯
　　など各種対策委員会を追加設置

2013年　セーフコミュニティ再認証を取得
　　安全・安心まちづくりフェスタを開催
　　セーフスクール取組を宣言

2014年　市民安全・安心フォーラムを開催

2015年　セーフスクールの国際認証を取得

2016年　ドライブレコーダーによるまちの見守り
　　協定の締結開始

セーフコミュニティのあゆみ②

2017年 市民参加型プロジェクト開始
☆セーフティドライブプロジェクト
☆まち・レコプロジェクト

2018年 セーフコミュニティ再々認証と
セーフスクール再認証を取得
「セーフコミュニティかめおかの歌」
と動画を制作、YouTubeで配信開始

2019年 第11回協働まちづくり表彰式にて
「セーフコミュニティによる
安全・安心なまちづくり優秀賞」受賞

2021年 防災対策委員会　設置

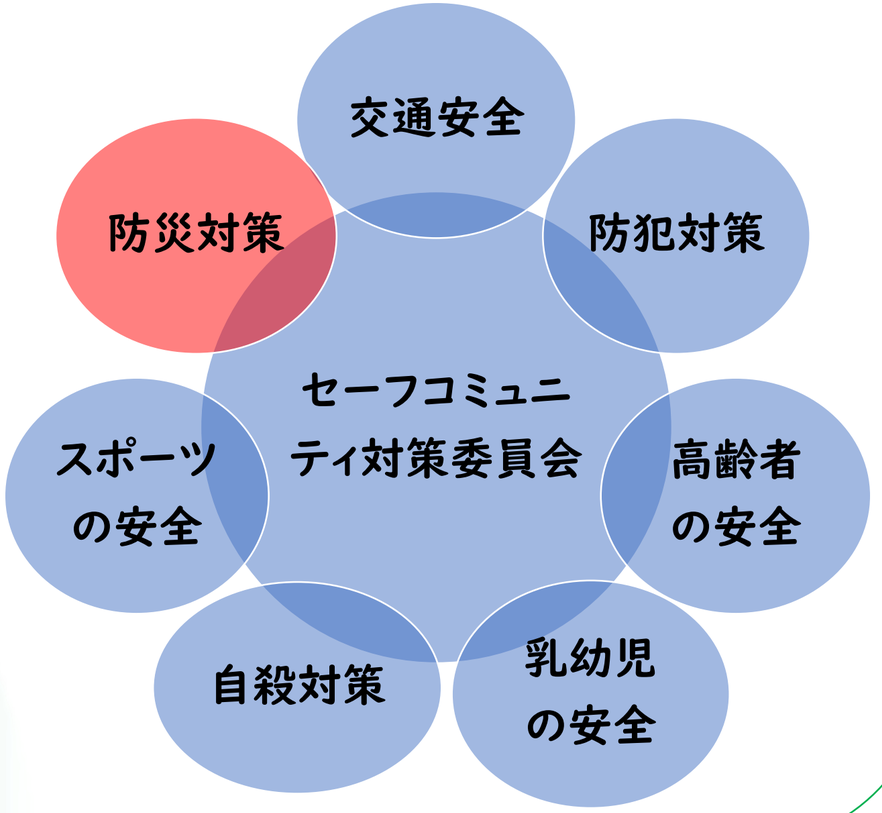
2023年 セーフコミュニティ国内認証を初取得

セーフコミュニティかめおかについて

セーフコミュニティかめおか組織体制

セーフコミュニティ推進協議会

サーベイランス委員会



防災対策委員会の設置背景

世界
- 地球温暖化の進行

日本
- 全国で災害が頻発

亀岡
- 市内で災害による被害大
- 防災対策は市民ニーズ1位

防災対策はセーフコミュニティの重要課題のうちの1つ

↓

令和3年4月　防災対策委員会設置

防災対策委員会名簿

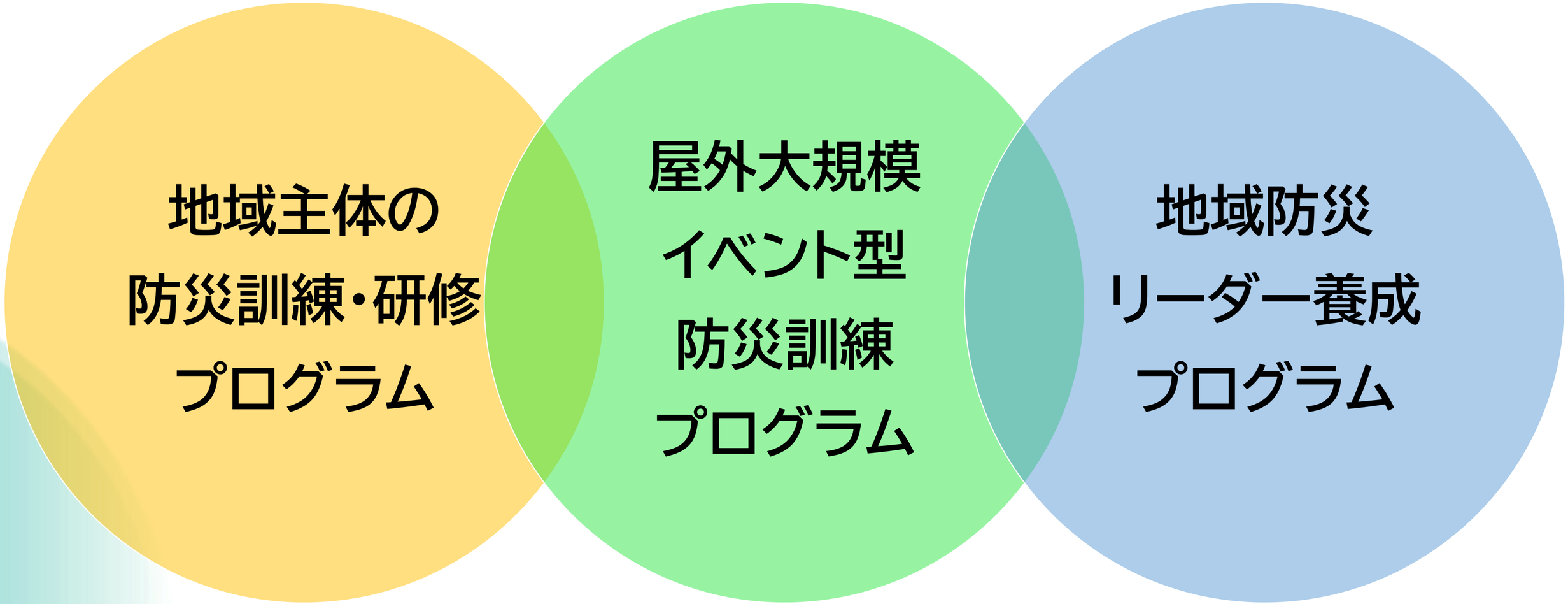
区分		所属団体
市民団体等	1	亀岡市自治会連合会
	2	亀岡市自主防災会
	3、4	亀岡市消防団（副団長2名）
	5	亀岡市社会福祉協議会
	6	亀岡市民生委員児童委員協議会
	7	NPO法人亀岡子育てネットワーク
	8	亀岡国際交流協会
	9	明治国際医療大学保健医療学部救急救命学科（追加）
行政機関等	10	京都府南丹広域振興局　総務防災課
	11	亀岡消防署予防課
	12	亀岡警察署警備課
	13	亀岡市立中学校長会
	14	亀岡市立小学校長会
	15	亀岡市自治防災課

合計：15名

市民と行政が
より一体となって
防災対策に取り組む！

亀岡市防災対策委員会への感謝状贈呈
(令和5年12月21日認証式)

防災対策委員会の主要プログラム



防災対策委員会のプログラム

①地域主体の防災訓練・研修プログラム

【課　題】　地域で開催される防災訓練などに参加したいと考える市民は多いが、実際に参加する市民の割合が少ない

【方向性】 防災活動に参加する地域住民を増やす

②屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

【課　題】　防災訓練に参加する若者の割合が少ない

【方向性】　若年層が参加しやすい防災イベントを企画する

③地域防災リーダー養成プログラム

【課　題】　地域における災害や防災に関する専門的な知識や技能を持つ人材が不足している

【方向性】　地域住民の先頭に立つ防災スキルを持った地域の防災リーダーを増やす

①地域主体の防災訓練・研修プログラム

地域主体の防災訓練/防災研修

実施回数	令和6年度：市内12回実施
参加者	約2,068名参加
訓練内容	地域の自主防災会を主体とした避難訓練や炊き出し訓練等を実施するとともに、市職員を講師として派遣するなど、防災知識の啓発を図る

②屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

地域防災計画に基づき、総合防災訓練を隔年実施

年度	防災関連事業
令和3年度	亀岡市防災フェスタ2021
令和4年度	防災士養成講座　（令和５・６年度も実施） こども防災士養成講座
令和5年度	京都府総合防災訓練
令和6年度	かめおか防災安全・安心フェスタ2024
令和7年度	亀岡市総合防災訓練

②屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

消防・警察・自衛隊など関係機関が連携した　総合防災訓練

訓練名	参加機関
地上からの情報収集・伝達訓練	京都府警察 陸上自衛隊
航空機運用訓練	京都府警察、京都市消防局、 陸上自衛隊、海上自衛隊など
土砂災害からの救出・救護訓練	京都中部広域消防組合 亀岡市消防団、陸上自衛隊
合同救護所訓練	京都中部広域消防組合 DMAT、陸上自衛隊
座屈ビルからの救出・救護訓練	京都中部広域消防組合 亀岡市消防団、京都府警察
一斉放水訓練	京都中部広域消防組合 亀岡市消防団
防災・車両展示	西日本電信電話㈱京都支店、 大阪ガスネットワーク㈱など

②屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

楽しく学べる参加体験型イベント　防災・安全安心フェスタ

参加団体

警察ブース	交通安全・防犯対策啓発 広域緊急援助隊活動紹介 京都府亀岡警察署
消防ブース	あつまれ!ファイヤーキッズ in Kameoka 2024 亀岡消防署
自衛隊ブース	自衛隊災害派遣車両集合! カレー試食・ロープワーク・制服試着 自衛隊 (第7普通科連隊・亀岡募集案内所)
消防団ブース	放水体験コーナー 亀岡市消防団
1	NHK防災コーナー NHK京都放送局
2	土砂災害を知ろう 耐震普及啓発 京都府南丹土木事務所
3	災害用伝言ダイヤル 171の体験コーナー 西日本電信電話株式会社京都支店
4	停電アプリ・ 感震ブレーカーの紹介 関西電力送配電株式会社京都本部
5	ボーイスカウトのモットー 「そなえよつねに」 日本ボーイスカウト京都連盟 亀岡第1団ボーイ隊
6	ガスマイコンメーターデモ機による 性能および復帰方法の紹介 大阪ガスネットワーク株式会社京滋事業部
7	災害ボランティア 普及啓発コーナー 亀岡市災害ボランティアセンター
8	インターナショナルコーナー 亀岡国際交流協会・亀岡市
9	交通安全反射材ワークショップ セーフコミュニティかめおか 交通安全対策委員会
10	「まち・レコ」 プロジェクト出前受付 セーフコミュニティかめおか 防犯対策委員会
11	災害に強いLPガス 一般社団法人 京都府LPガス協会亀岡支部
12	日吉ダムの役割と洪水調節 独立行政法人 水資源機構日吉ダム管理所
13	大雨で道路が水だらけ!! 歩いても大丈夫? 冠水時の避難体験 明治国際医療大学防災研究所
14	最新ドローン機体展示 一般社団法人DCPA
15	コーナン防災コーナー 子供向け防災クイズ ホームセンターコーナン
16	災害ベンダー資料・ 長期保存水の展示 アサヒ飲料株式会社
17	高速道路の防災事業に関する展示 黄色パトロールカー遊具の試乗体験 西日本高速道路株式会社関西支社 亀岡高速道路事務所
18	災害対策車両等 展示コーナー 国土交通省京都国道事務所
19	AR初期消火訓練体験 消防防災機器の展示 大槻ポンプ工業株式会社
20	子どもの目線で見ると危険がいっぱい! 子どもの事故予防コーナー セーフコミュニティかめおか 乳幼児の安全対策委員会
21	避難所体験コーナー 京都府南丹保健所・亀岡市薬剤師会・亀岡市
野外ステージ	亀岡中学校吹奏楽部コンサート 亀岡市立亀岡中学校

③地域防災リーダー養成プログラム

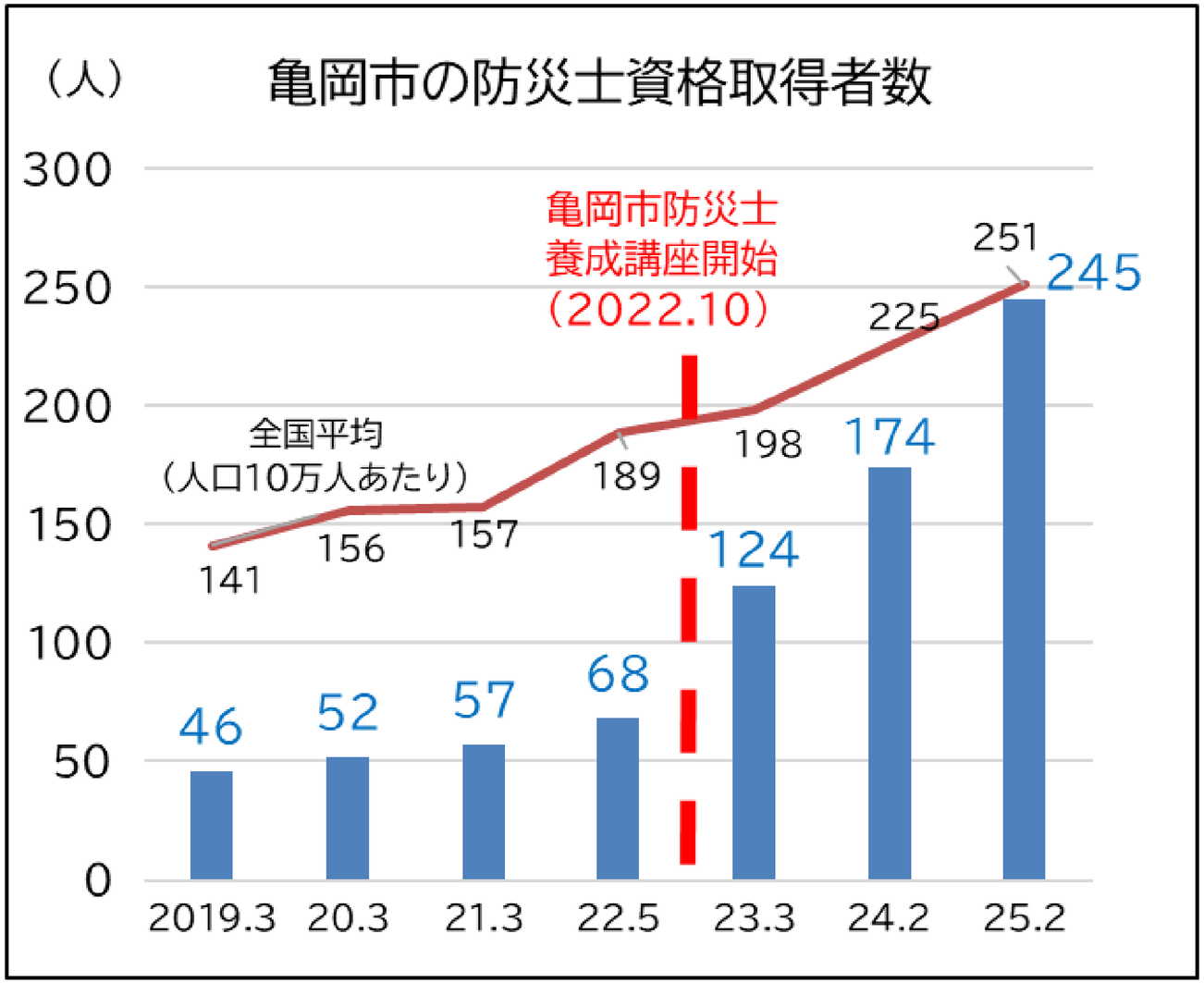
亀岡市防災士養成講座

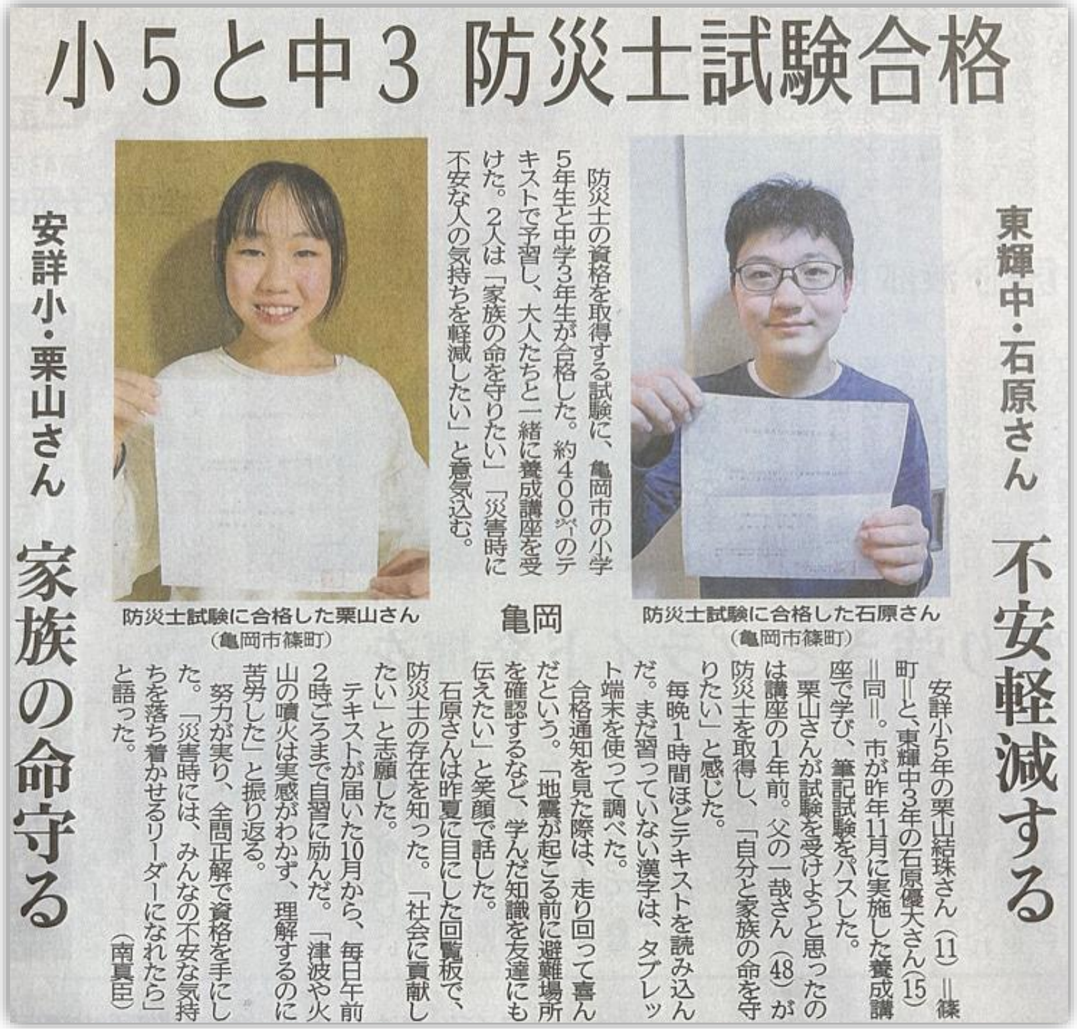
亀岡市こども防災士養成事業

かめおか防災士ネットワーク

③地域防災リーダー養成プログラム

防災士数の推移





小5と中3 防災士試験合格

東輝中・石原さん 不安軽減する

安詳小・栗山さん 家族の命守る

防災士の資格を取得する試験に、亀岡市の小学5年生と中学3年生が合格した。約400ページのテキストで予習し、大人たちと一緒に養成講座を受けた。2人は「家族の命を守りたい」「災害時に不安な人の気持ちを軽減したい」と意気込む。

防災士試験に合格した石原さん（亀岡市篠町）

防災士試験に合格した栗山さん（亀岡市篠町）

亀岡

安詳小5年の栗山結珠さん（11）＝篠町＝と、東輝中3年の石原優大さん（15）＝同＝。市が昨年11月に実施した養成講座で学び、筆記試験をパスした。

栗山さんが試験を受けようと思ったのは講座の1年前。父の一哉さん（48）が防災士を取得し、「自分と家族の命を守りたい」と感じた。

毎晩1時間ほどテキストを読み込んだ。まだ習っていない漢字は、タブレット端末を使って調べた。

合格通知を見た際は、走り回って喜んだという。「地震が起こる前に避難場所を確認するなど、学んだ知識を友達にも伝えたい」と笑顔で話した。

石原さんは昨夏に目にした回覧板で、防災士の存在を知った。「社会に貢献したい」と志願した。

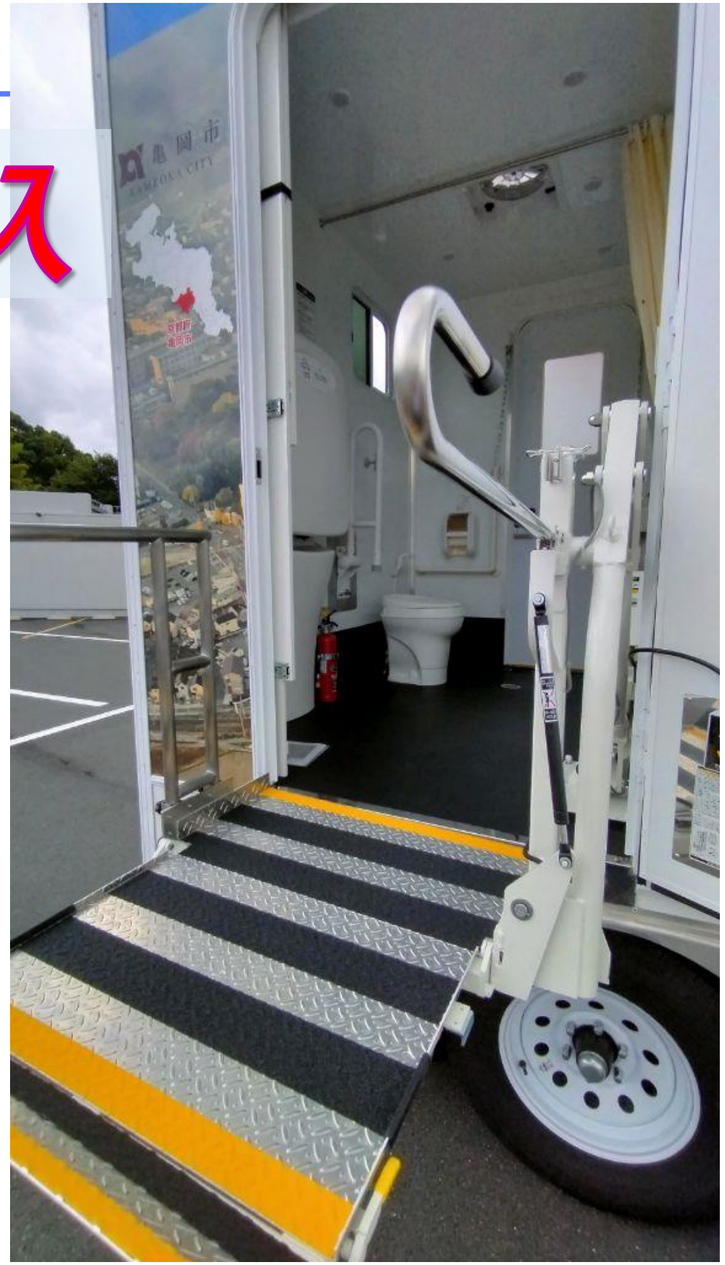
テキストが届いた10月から、毎日午前2時ごろまで自習に励んだ。「津波や火山の噴火は実感がわかず、理解するのに苦労した」と振り返る。

努力が実り、全問正解で資格を手にした。「災害時には、みんなの不安な気持ちを落ち着かせるリーダーになれたら」と語った。（南真臣）

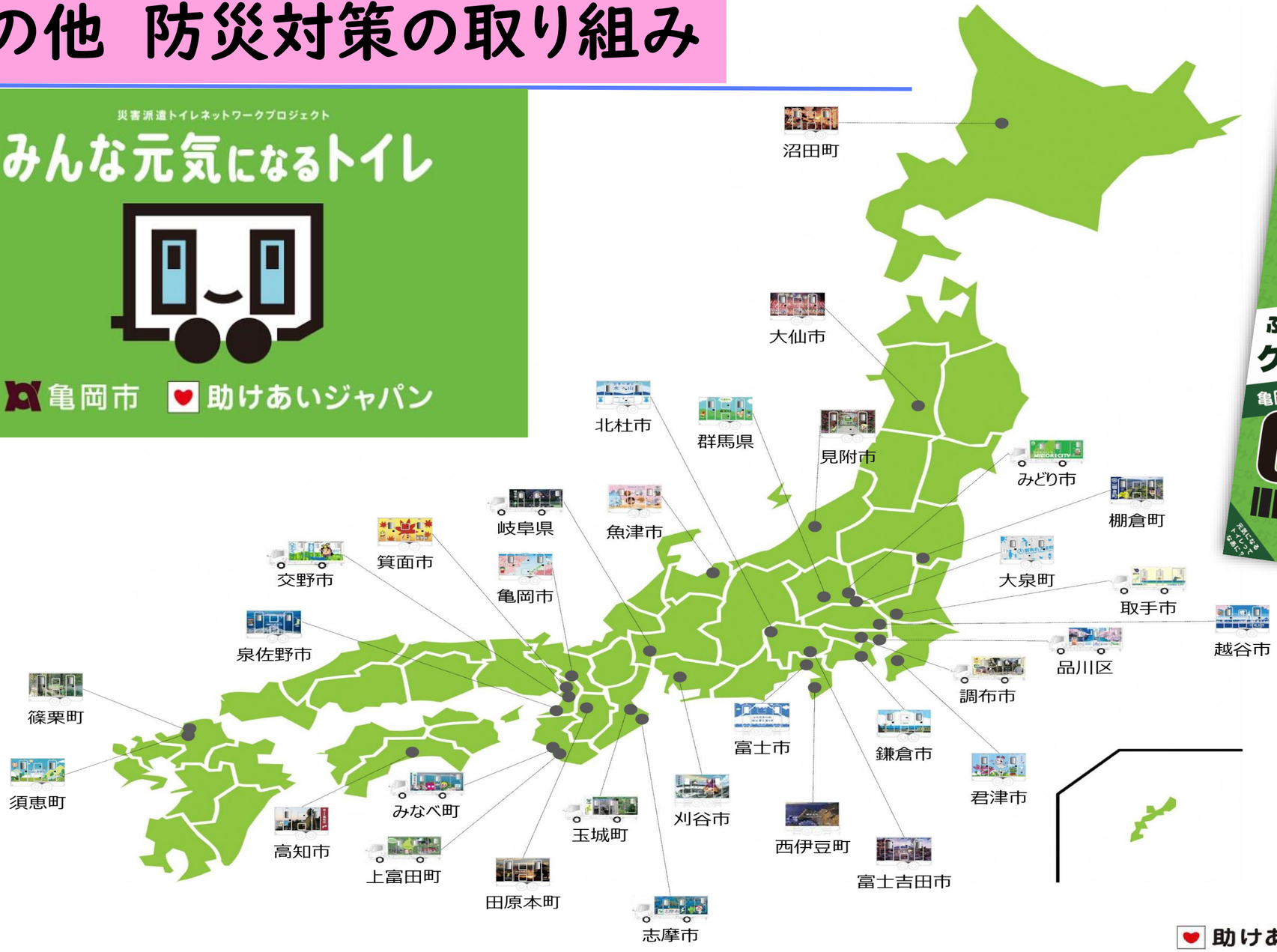
【引用】：令和７年１月１０日　京都新聞朝刊

その他　防災対策の取り組み

トイレトレーラーの導入



その他　防災対策の取り組み



助けあいジャパン

被災地支援活動の実施

令和6年能登半島地震への支援

2024.1.1　能登半島地震発生
2024.1.2　トイレトレーラー派遣
同日　七尾市の避難所に設置

①高知県高知市

②福岡県須恵町

③山梨県富士吉田市

④福岡県篠栗町

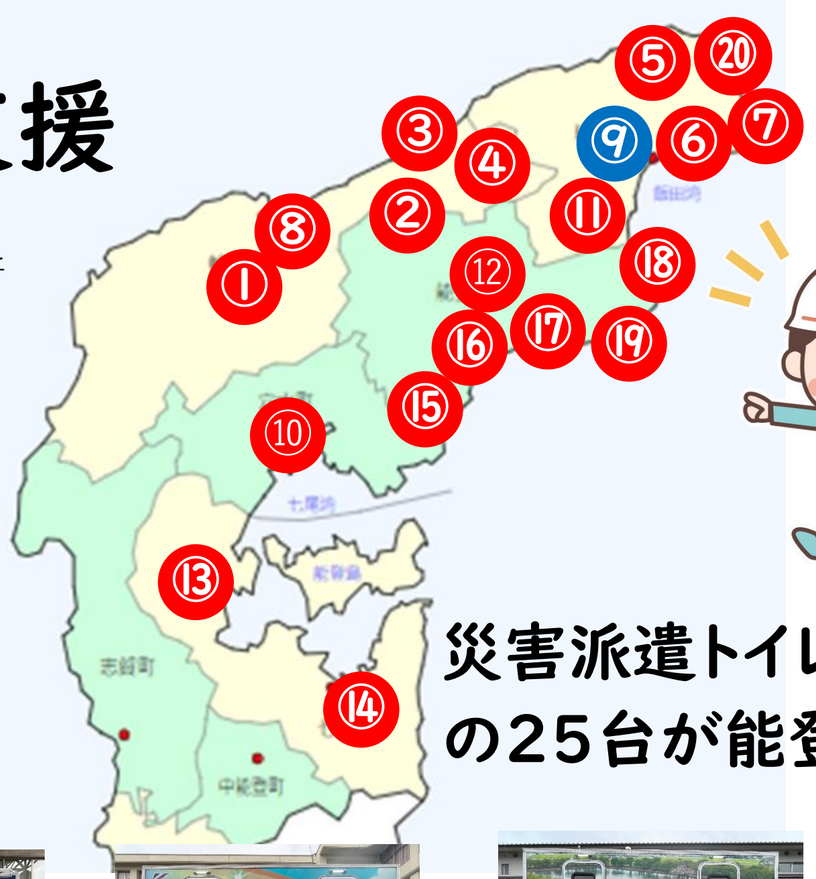
⑤静岡県富士市

⑥北海道沼田町

⑦埼玉県越谷市

能登半島地震トイレ支援

2024年2月末
の配置場所



⑨京都府亀岡市

⑧千葉県君津市

⑳大阪府泉佐野市

⑪神奈川県鎌倉市

⑩静岡県西伊豆町

トイレトレーラーの設置状況
（移設・再派遣により、延べ
41カ所でトイレを提供）

災害派遣トイレネットワーク
の25台が能登半島に集結

⑱群馬県大泉町

⑫秋田県大仙市

⑬大阪府箕面市

⑭山梨県北杜市

⑮愛知県刈谷市

⑯奈良県田原本町

⑰群馬県庁

⑲新潟県見附市

被災地支援活動の実施

亀岡市の能登半島地震への支援

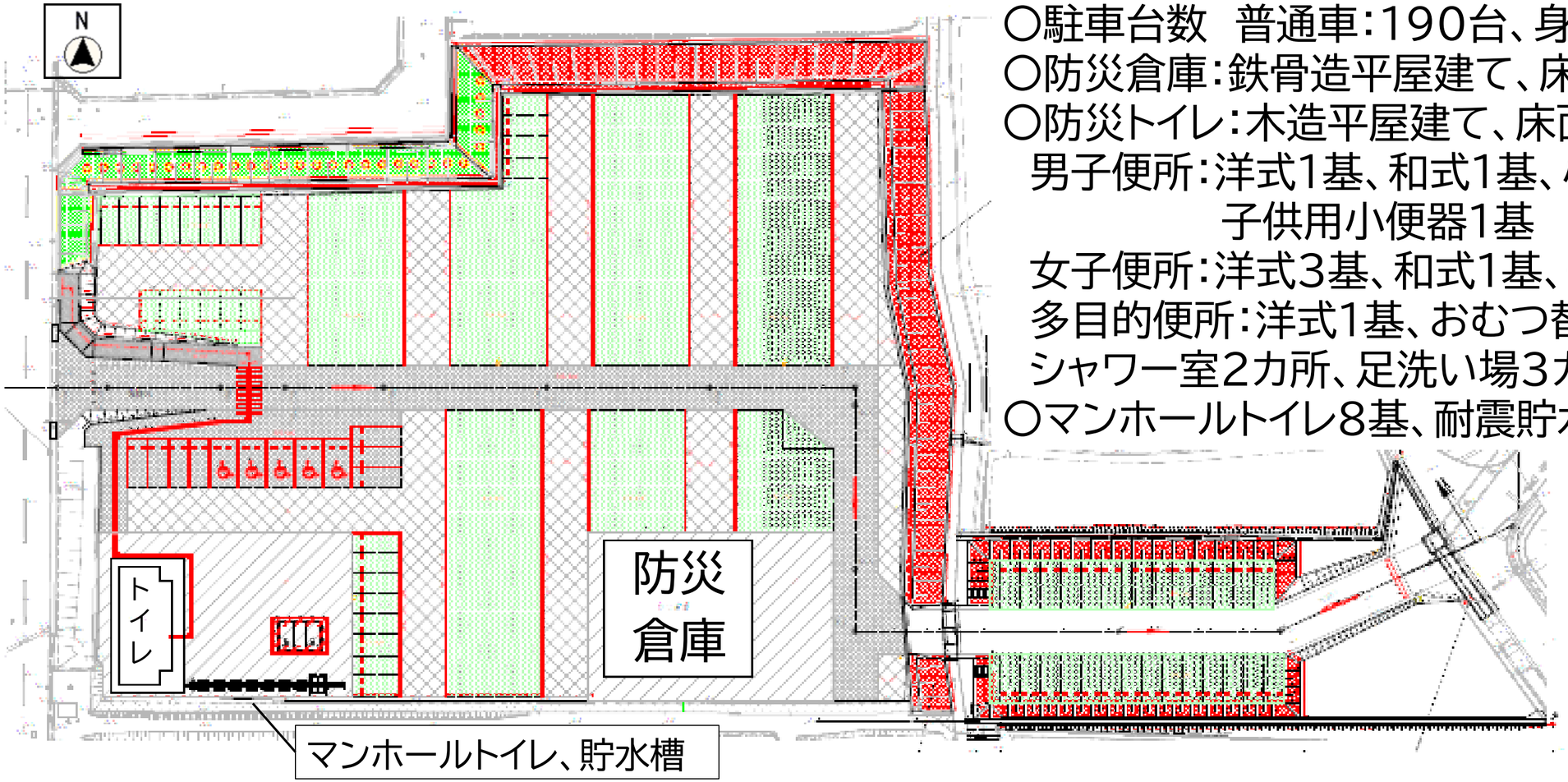
短期の職員派遣　延べ１２９人
　被災建物応急危険度判定士：２人
　看護師：４人、保健師：1人
　避難所運営支援職員：１１人
　り災証明書発行支援職員：６人
　給水車及び給水支援職員：６人
　災害ボランティア：８５人ほか

長期の職員派遣　１人
　珠洲市に2025年4月～１年間(予定)

トイレトレーラー派遣
　1月2日～7月17日(1月22日に七尾市から珠洲市に移設)
　9月23日～12月5日(奥能登豪雨により再派遣)

その他　防災拠点施設の整備

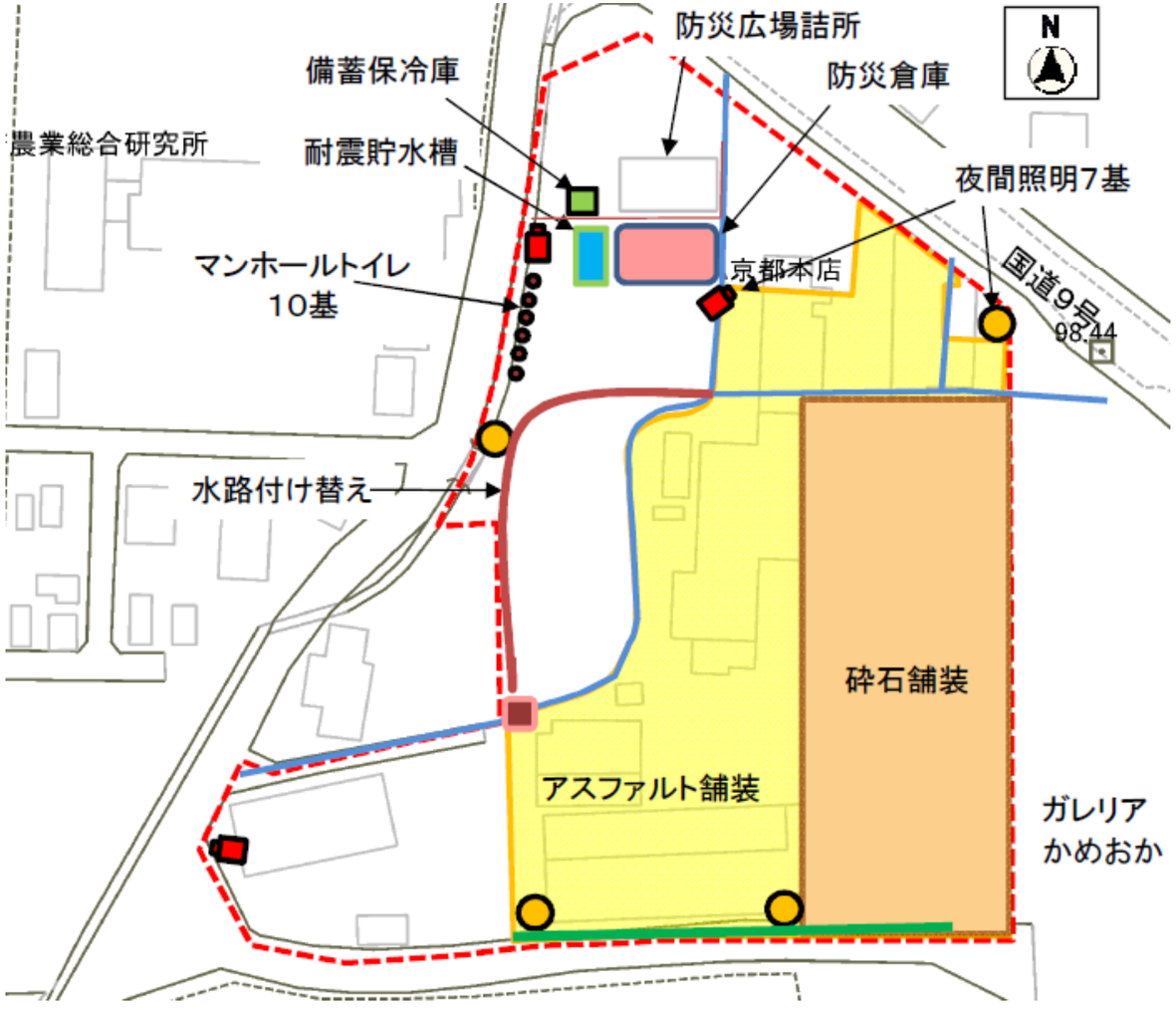
（仮称）カーシェルター野水（車中避難場所）



○駐車台数　普通車：190台、身障者用：5台
○防災倉庫：鉄骨造平屋建て、床面積約300㎡
○防災トイレ：木造平屋建て、床面積約90㎡
　男子便所：洋式1基、和式1基、小便器3基
　　子供用小便器1基
　女子便所：洋式3基、和式1基、子供用小便器1基
　多目的便所：洋式1基、おむつ替え台1基
　シャワー室2カ所、足洗い場3カ所
○マンホールトイレ8基、耐震貯水槽1基

その他　防災拠点施設の整備

（仮称）かめおか防災広場（受援拠点施設）

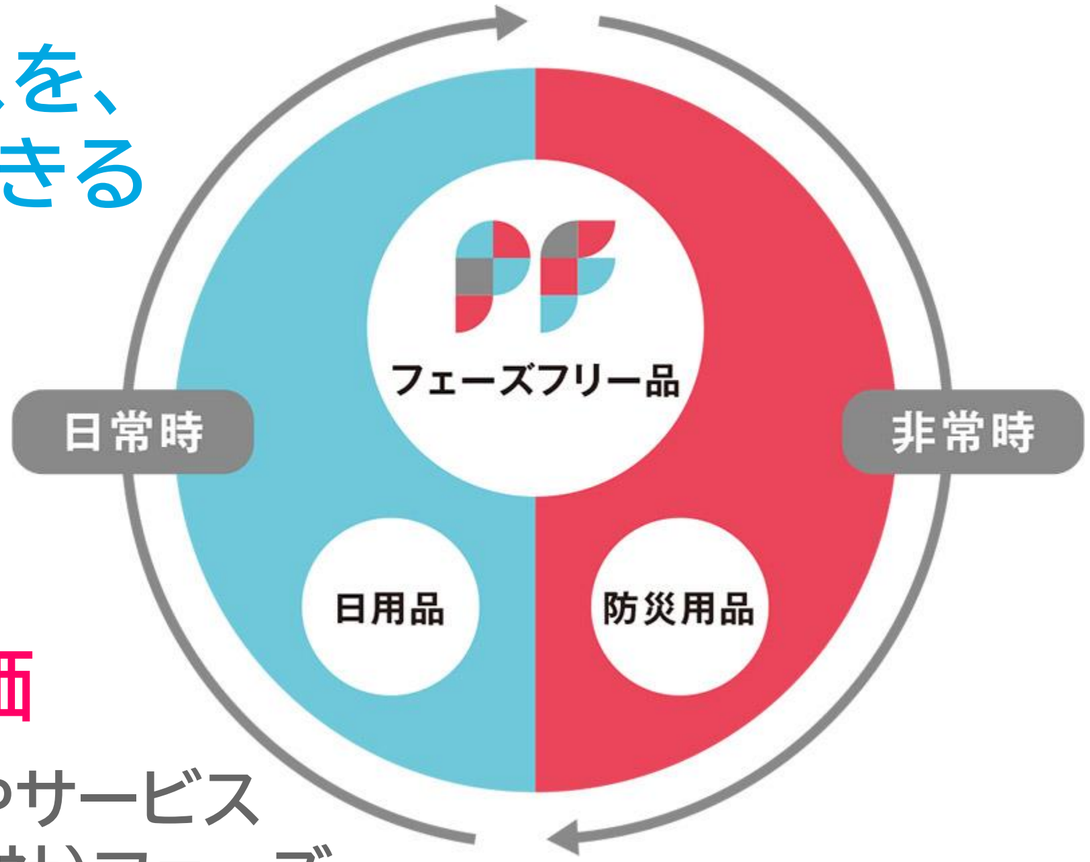


- ○駐車場　普通車：500～600台
  アスファルト舗装（一部砕石舗装）
- ○防災倉庫（小規模）
- ○防災広場詰所
- ○備蓄保冷庫
- ○夜間照明7基
- ○マンホールトイレ10基
- ○耐震貯水槽1基
- ○水路の付け替え
- ○フェンス設置

フェーズフリーとは

いつも利用しているモノやサービスを、もしものときに役立てることができる

- 日常時と非常時という時間的なフェーズをフリーにする
- いつもの生活で便利、もしもの時には役に立つデザイン



フェーズフリーなデザインとして評価

- フェーズフリー認証（PF認証）とは、商品やサービスが日常時も非常時も価値を持つことを（一社）フェーズフリー協会が認証する制度。フェーズフリーの価値を伝えやすくすることが目的。

フェーズフリーの定義

PHASE FREE

災害のために特別なことを用意するのではなく
普段使っているものが災害でも役に立つ

フェーズフリー5原則

常活性：どのような状況においても快適に活用できること。
日常性：いつもの暮らしの中で、その商品やサービスを心地よく、快適に活用することができること。
直感性：使用方法や消耗・交換時期などが分かりやすいこと。誰にも使いやすくて利用しやすいもの。
触発性：フェーズフリーな商品・サービスを通して、多くの人に安全や安心に関する意識を提起するもの。
普及性：安心で快適な社会をつくるために、誰でも気軽に参加・活用ができること。

フェーズフリーデザイン事例

PHV車は、電気自動車（EV）と従来のハイブリッドカー（HV）の長所を併せ持ったクルマ。電気モーターとガソリンエンジン２つの動力源を持ち、搭載した大容量リチウムイオンバッテリー、また、エンジンを作動させて発電機として停電時でも蓄電池・発電機として活用できる。

走れるビジネスシューズ。上質な牛革を使用しフォーマルな外見は保ちつつ、ランニングシューズにも採用されている衝撃緩衝材や中敷を搭載し、歩きやすさを実現。従来のビジネスシューズの「足に負担がかかる」「歩きにくい」といった課題を解決した。

一般的な紙コップの機能は飲料を飲むという用途に限られるが、目盛付きデザイン紙コップは、「ml/cc」「合」「カップ」の目盛りをデザインに融合。災害時や屋外などでの粉ミルクや米の計量といった用途を拡大した。

フェーズフリーデザイン事例

南池袋公園 （東京都豊島区）

・ 2016年にリニューアルオープンした、広く開放的な芝生エリアを有する「オープンハートな公園」。

緑あふれる公園内は自由に過ごすことができるほか、食を介して生産者と消費者をつなぐカフェレストランや、多目的イベント広場、テラスがある。外周の生け垣には真夏用にミストが設置されるなど、都市を安全で快適に楽しむ工夫が数多くちりばめられている。

池袋駅からの帰宅困難者の一時待避、物資の備蓄、災害対策本部と連携した情報伝達、災害トイレ、カフェレストランによる炊き出し機能が予めデザインされている。また外周ミストや緑に囲まれたフラットな空間により、火災発生時の延焼防止機能を果たす。

フェーズフリーデザイン事例

としまみどりの防災公園 イケ・サンパーク（東京都豊島区）

・ もしもの時は避難場所に。いつもの憩いの広場

公設の公園でありながら園内にカフェが設置され、飲食店等の公募対象公園施設の設置と、当該施設から生じる収益を活用した特定公園施設の整備・改修等を一体的に行っている。日頃からのにぎわい創出が公的な維持費の削減につながっている。

カフェや可動式小型店舗では炊き出しが行われるほか、中央部のフラットな空間はヘリポートとなって、園内の通路には大型トラックや緊急車両の乗り入れも可能なため、救援物資の搬入や重症患者の搬送もスムーズに行える。

フェーズフリーな仕組み

例えば、

- ローリングストック（家庭での食品備蓄）
- スマートフォン（情報通信機器の進化）
- アウトドア用品の活用

フェーズフリーのメリット

特別な準備が不要：普段から使っているものを活用するので、特別な防災グッズを準備する必要がない。

防災意識の向上：日常的に防災を意識することで、自然に防災意識を高めることができる。

経済的：特別な防災グッズを購入する必要がないため経済的。

心理的負担の軽減：特別な準備を必要としないため、心理的な負担を軽減できる。

過去の災害から学ぶ

日本の災害時の課題

- 災害関連死から命を救う
- 誰もが快適な避難所環境の確保
- 市民の財産を守る

セーフコミュニティから考える

高齢者の安全対策

課題：転倒による外傷を減らす

対策

効果

日常時

フレイル予防により、健康寿命を延ばし、要介護状態への移行を防ぐことで、自立した生活を長く続けることができる。

災害時

エコノミークラス症候群の予防になるとともに、精神的にもリフレッシュすることで、災害関連死を減らすことができる。

セーフコミュニティから考える

フェーズフリーから事前予防を考える【亀岡市】

乳幼児の安全対策

課題：住宅での外傷が多い

対策

保護者への呼びかけ ポスター掲示

効果

日常時

初めて親となった保護者は、何事も初めての経験であり、子の検診時に予防対策を呼び掛け、子どもの不慮の事故を防ぐ。

災害時

避難所に啓発ポスターやパンフレットを掲示することで保護者は基より、周りの避難者の気配にも繋がり、より快適な避難所となる。

セーフコミュニティから考える

防犯対策

課題：窃盗犯が約半分を占める

対策

ドライブレコーダー活用

効果

日常時

企業や個人のドライブレコーダーを動く防犯カメラとしてボランティア登録いただき、まちの見守り活動に貢献している。

災害時

大規模災害時には、避難している留守宅に入る侵入盗が多発。

停電時でも車のドライブレコーダーなら、犯人が写っているかも。

フェーズフリーから事前予防を考える

亀岡市
KAMEOKA CITY

ご清聴ありがとうございました。